

## I. S. P. O 20th World Congress 2025 in Stockholm 参加印象記

国立障害者リハビリテーションセンター研究所 樋口凱

2025年6月16日から19日までの4日間、スウェーデン・ストックホルムで行われた I.S.P.O. 20th World Congress2025 に参加し、ポスターにて発表してきました。今回は「実践の中の科学、科学の中の実践」をテーマとして、100カ国以上から約3,200名が参加する大会となりました。

ポスター発表演題には今大会も Poster pitch セッションが設けられました。これは選出された発表者が1枚の概要スライドと共に研究内容を1分間で説明するもので、前回のメキシコ大会で新設されたプログラムです。前は3分間であったのに比べると発表のハードルは下がったと思います。その後の30分間の”Meet the presenters”では質問者に詳細説明や関連研究の紹介を行いましたが、ポスター展示は同種の研究分野にまとめられるため、質問者への対応以外は他の研究者と情報交換していました。義手操作の習得に関する研究分野ではVRを用いたシミュレーションが盛んに行われている印象を受けました。

口頭発表のセッションでは日本と同様のジャンル分けの他に、骨直結義肢のセッションが複数独立していたり、ニューロテクノロジーの発表があったりと他国の流行が反映されているプログラムでした。また、3Dプリンタを用いた SACH 足（狭義の SACH 足：踵にクッションがある足部）の開発について新興国から報告される等、既存の製品が新たな技術で再構築されてきているように感じられ、新しい着眼点を学ぶ機会となりました。本大会ではシンポジウムや一般講演の他にも多くの教育講演が開設され、義手の新たな懸垂方法の共有といった国外の製作プロセスについて情報を得ることができました。

192社が出展した企業展示では新興企業ゾーンも設けられ、自分が新たに知った企業も数多くありました。ハンズオンセミナーも各所で頻繁に開催され、大変活気ある会場でした。

今回の学会発表は日本義肢装具学会より海外研修制度にてご支援いただきました。厚く御礼申し上げます。



I.S.P.O. 20th World Congress2025 Stockholm,Sweden 16-19 June 2025